

近畿病院図書室協議会第27回勉強会

研修部

日 時：2008年5月11日(日) 13:00~17:00

場 所：藍野大学中央図書館 3階 大会議室

プログラム：

1. 近畿病院図書室協議会について

社会保険神戸中央病院 林 伴子氏

2. 病院図書館の基本業務 —整理と保管—

書籍：大阪滋慶学園 田中律子氏

雑誌：社会保険神戸中央病院 林 伴子氏

3. 文献入手について

大阪府立母子保健総合医療センター

中村雅子氏

4. 藍野大学中央図書館の紹介と見学

藍野大学中央図書館 事務長 増田 徹氏

参加者数：13名（研修部3名を含む）

<近畿病院図書室協議会について>

近畿病院図書室協議会の設立目的、創設年、構成会員数が挙げられ、事業内容・活動部局の説明があった。また近畿病院図書室協議会のホームページを表示され、Kinki Webcatを含め当協議会組織についても閲覧できることを紹介された。また定例会議の内容や、日本各地における病院図書館の関連団体、大学図書館とのつながりについても述べられた。今後の課題・展望については人材確保の困難さが最大の問題であること、また地域間格差を無くすための交通費補助、会員が外部団体研修会・研究会に参加した場合には報告書提出があれば参加費補助を出すことについて検討中であることを紹介された。

<病院図書館の基本業務 —整理と保管—>

書籍について受入から配架までの登録業務の中で、目録データの作成および書誌データ・所蔵データの違いを中心に説明された。目録作成はNacsisWebcatのデータに倣うことが第一歩ではあるが、自分で目録が作成できるよう基準となる目録規則や分類法が紹介された。貸出・返却の効率化、またMARCからの正確な書誌データ登録のため、まず安価な図書館システムの導入を試みることを奨められた。

雑誌については年間スケジュールを中心に説明された。発注時期が遅れてしまうと入手不可能になるので、選定から見積り準備までスケジュールから遅れることなく進めることが重要であること、また外国雑誌については、未着・欠号などの書店へのクレーム連絡は早急に行うよう指摘された。

<文献入手について>

文献取り寄せについて基本的事項の確認の後、JMLA（日本医学図書館協会）発行の「相互利用マニュアル 第5版」に基づくILL（図書館間相互貸借）業務の手順および第4版からの変更点について説明された。依頼を受けた側の立場になり書誌事項を確認することが重要であり、その確認に活用できるPubMedの使い方、その他書籍の書誌事項確認ツールを紹介された。料金の支払いについては図書館間相互利用を成立させるため、支払い手続きが簡易で安価な施設に依頼が集中しないよう、各々の図書館（室）での郵便口座開設が大切であると述べられた。

<藍野大学中央図書館の紹介と見学>

‘藍野’という学院名の由来、創立から約40年間に及ぶ学院の沿革から学生数、関連施設、関連校を紹介された。また図書館については蔵書数、1カ月の資料購入金額、館内展示物など詳細について説明された。図書館紹介の後に増田氏の案内のもと、参加者全員で図書館内を見学した。

また、事前予定されていなかったがプログラム半ばに休憩時間を設けた後、ホームページ

ワーキンググループの佐藤道子氏（兵庫県立光風病院）より近畿病院図書室協議会のホームページの紹介があった。内容は月2回更新されており、研修会・勉強会の日程が案内されていること、また掲示板の活用方法やホームページから各部局への問い合わせができることについて案内された。

（文責：田中律子／大阪滋慶学園）